

## 6. APPLICATION GENERATION

メモ

KDC FW2.85.200.xは Application Generation機能に対応しておりません。この機能を使用するためには、FW2.86.100にアップグレードしてください。

KTSyncでApplication menuを選択すると、Generation、DB Lookup、Master/Slave、Pick/BIN、Inventoryの5つのアプリケーションから1つを選択して使用することができます。またImport & Downloadオプションを使用して、KDCに新しいアプリケーションプログラムをダウンロードして使用することもできます。

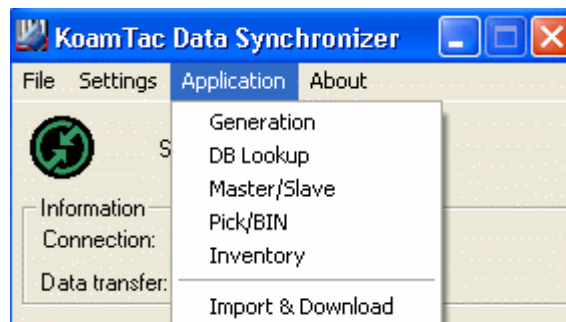


図35. Application Menu

Applicationの1つを選択すると、KDCと該当するプログラムの接続を示すビープ音が鳴ります。KDCにダウンロードされたアプリケーションプログラムがKTSync applicationから選んだアプリケーションプログラムと違う場合、以下の警告ウィンドウが表示されます。

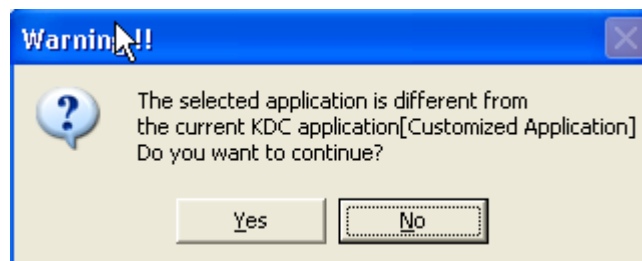


図36. アプリケーション警告

メモ

KDC FW2.86.xxx.Gまたは3.0以降のバージョンでは、data processメニューの“wedge and store always”オプションを選択した場合、Applicationモードでバーコードデータをホストのアプリケーションに転送します。

## 6.1 Application Generation

KoamTacが提供するアプリケーション開発ツール（Application Generation Tool）で、読み取ったバーコードデータを管理するための最適なアプリケーションを開発することができます。以下のような最適化を行うアプリケーションプログラムを使用することができます。KTSyncのApplication menuからGenerationを選択してください。

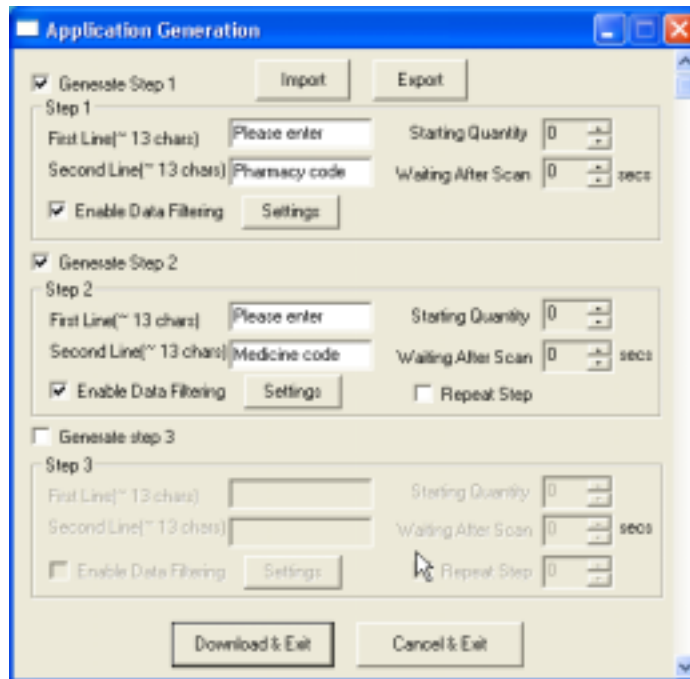


図37. Application Generationメニュー

### Generate Application（アプリケーションの作成方法）

**Generate step 1** – カスタムアプリケーションを作成するためにGenerate Step 1ボックスを選択します。これはカスタムアプリケーションのStep 1でのデータ収集の設定を有効にします。以下はそれぞれの設定内容の説明です。同じ方法でGenerate Step 2とStep 3を設定できます。

#### メモ

新しく開発するアプリケーションには、少なくともStep 1が必要です。  
Step2 及びStep3はオプション項目です。

- **First line**  
KDC画面の1行目に表示される文字で、最大で13字まで入力することができます。
- **Second line**  
KDC画面の2行目に表示される文字で、最大で13字まで入力することができます。
- **Starting quantity**  
スキャンされた各バーコードに割り当てる初期数量（Starting quantity）を入力することができます。初期数量（Starting quantity）は1～128の間で設定できます。
- **Waiting to scan**  
次のバーコードをスキャンするまでの待機時間を指定することができます。この待機時間中

に数量 (quantity) を変更することができます。0に設定した場合、数量は調節できません。時間は“-1”から“30”(秒)まで設定することができます。“-1”秒の場合、数量を入力するまでの待機時間は無限になります。

- Enable data filter

データフィルタオプションを選択すると、以下のように様々なデータのフィルタリング値を設定することができます。

## データフィルタ設定 (Data Filter Settings)

データフィルタオプションを設定する場合、“Settings” ボタンをクリックしてください。データフィルタの設定はStep1、Step 2、Step 3の段階別に指定してください。

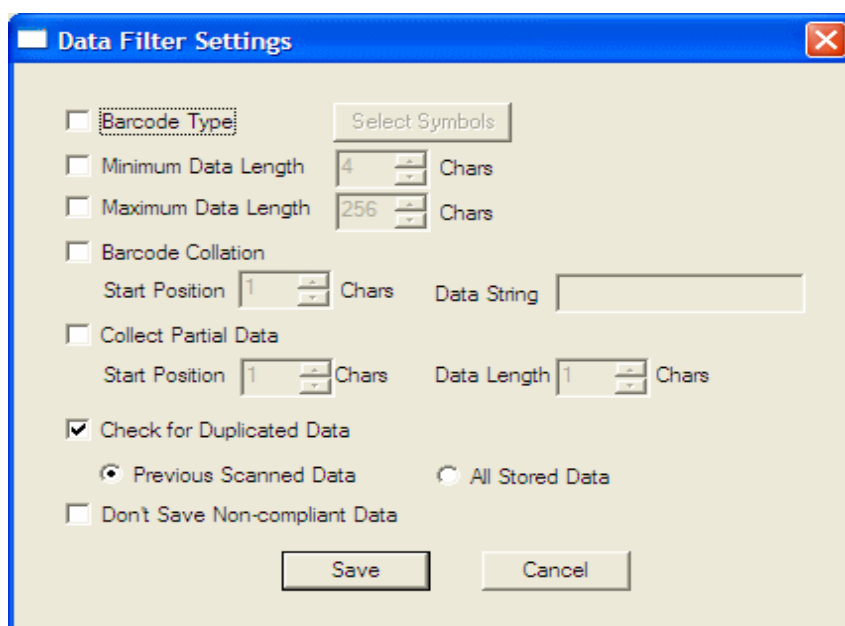


図38. データフィルタ設定

- Barcode Type

バーコードの種類を選択します。Barcode Typeボックスを選択すると、Select Symbolsボタンが有効になります。Select Symbolsボタンを押すと、選択可能なバーコードの種類が表示されます。スキャンするバーコードを選択してください。

- Minimum Data Length

バーコードの最短の長さを指定します。最短の長さは2～36 (KDC350L)、2～48 (KDC350C)文字です。設定した長さより短いバーコードをスキャンした場合、ビープ音が鳴り、バーコードデータは保存されません。

メモ

KDC Scan Optionで定義されている Minimum Barcode Lengthの初期値は4です。Minimum Data Lengthを2または3に指定して使用するためには、Scan Optionの Minimum Barcode Lengthを2または3に指定してください。

- **Maximum Data Length**

バーコードの最長の長さを指定します。最長の長さは2～256文字です。設定した長さより長いバーコードをスキャンした場合、ビープ音が鳴り、バーコードデータは保存されません。

- **Barcode Collation**

スキャンしたバーコードと比較する文字列を設定することができます。

- **Starting Position** - 指定したデータ型と比較するバーコードの開始位置を設定します。
- **Data String** - スキャンしたバーコードと比較する文字列を設定します。最長の長さは32文字です。

- **Collect Partial Data**

バーコードデータの一部の文字列のみを選択して保存することができます。

- **Start position** - スキャンしたバーコードデータの開始位置を設定します。
- **Data Length** - KDCに保存するデータの長さを設定します。

- **Check for Duplicated Data**

バーコードデータの重複を防ぐオプションです。

- **Previous Scanned Data** - スキャンしたバーコードデータを直前にスキャンされたバーコードデータと比較します。重複する場合、エラーを知らせるビープ音が鳴り不適合データとして処理します。
- **All Stored Data** - スキャンしたバーコードデータを保存している全てのバーコードデータと比較します。重複データがある場合、エラーを知らせるビープ音が鳴り不適合データとして処理します。

- **Don't Save Non-Compliant Data**

- この設定が有効な場合、KDCは上記で設定したデータフィルタに一致しないバーコードデータを保存しません。Non-Compliantと表示された状態で保存されます。保存されたNon-CompliantデータはKTSync 同期の時、オプションの選びに従って同期することができます。

### Generate step 2

Step2を設定するためには、Step2のボックスにチェックを入れてください。Step 2もStep1と同じく データフィルタオプションを設定することができます。Repeat Stepにチェックを入れるとStep 2を連続で実行します。

メモ

Step3を使用する場合、Repeat Stepオプションは有効ではありません。

### Generate step 3

Step 3を設定するためには、Step3のボックスにチェックを入れてください。Step1、2と同じくデータフィルタオプションを設定することができます。Step 3はRepeat Stepにチェックを入れ、Step 2とStep 3を繰り返す回数を設定できます。

## 作成したアプリケーションをダウンロードして実行する

KDCでアプリケーションプログラムを実行するため、アプリケーションをKDCにダウンロードする必要があります。

1. Application Generation Windowで“Download” ボタンをクリックしてください。
2. KDCのモードをNormalモードからApplicationモードに変更してください。
  - A. 機器側面の2つのボタンを同時に押し、KDCメニューの設定に入ります。
  - B. KDC Modeを選択し、スキャンボタンを押してください。
  - C. Application modeに変更します。
  - D. Save and exitを選択し、Menu Modeを終了します。
3. KDCモードをApplicationモードに変更しない場合、アプリケーションプログラムを使用することはできません。
4. KDCからダウンロードしたアプリケーションを削除したい場合は、KDCメニューのSystem ConfigでReset Memoryを選択してApp. Dataを選択してください。

## 6.2 Predefined Applications

KTSyncはMaster/Slave、Pick/Bin、DB Lookup、Inventoryの4つのPredefined Applicationに対応しています。

### Master/Slave

Master/Slave predefined applicationはMasterバーコードを登録し、1つまたは複数のSlaveバーコードと比較をする機能です。また、バーコードデータの一部のみを比較する機能もあります。

#### Master/Slave Onetime

1つのマスターバーコードと1つのスレーブバーコードと比較します。

#### Master/Slave Continuous

1つのマスターバーコードと複数のスレーブバーコードと比較します。

#### Collation Options

マスターバーコードとスレーブバーコードを比較する際、比較する部分の文字列を設定することができます。

- **Master start position** – 選択したマスターバーコードの開始位置を1～255の数字で入力します。
- **Slave start position** – 選択したスレーブバーコードの開始位置を1～255の数字で入力します。
- **Number of characters** – 比較する文字数を0～255の数字で入力します。0の場合、すべての文字を比較するように設定されます。

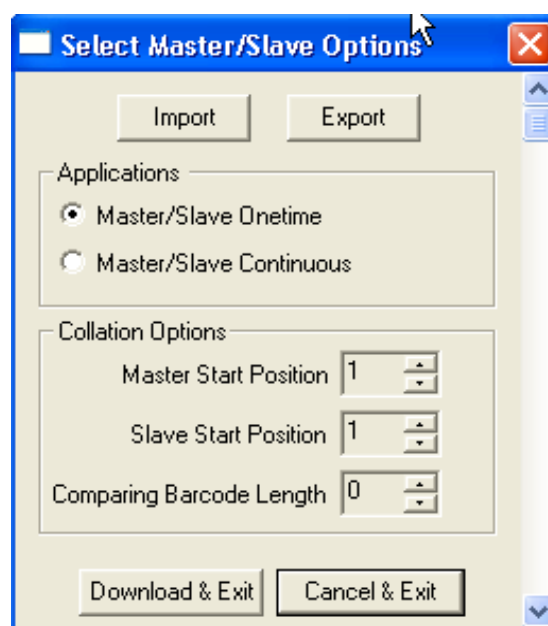


図39. マスタ・スレーブ設定

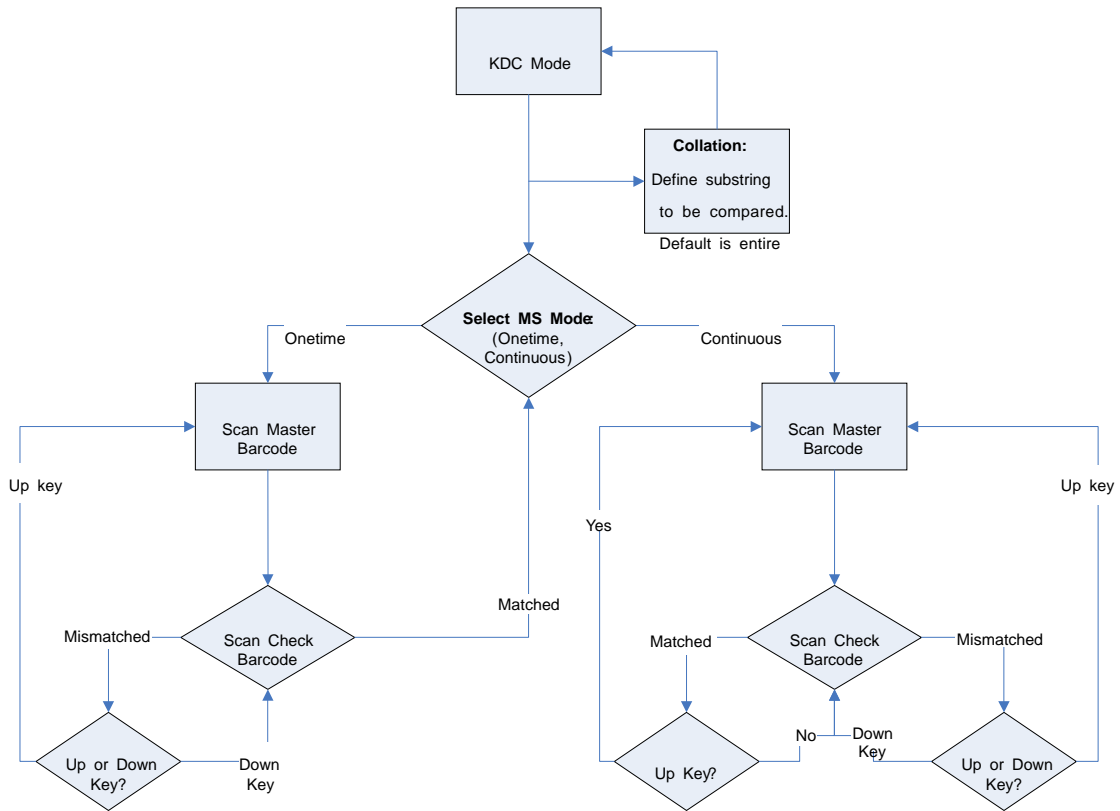


図40. マスター/スレーブのアプリケーションフローチャート

## Pick/Bin設定

Pick/Bin predefined applicationはMaster/Slave predefined applicationの特別アプリケーションプログラムです。定義済みBinと比較するための、定義済みPick IDとバーコードを設定します。

- Number of ID and Symbology

Pick IDの長さを1～32文字で設定し、バーコードの種類も設定することができます。

- Pick Start Position and Symbology

Pickバーコードデータで比較する文字列の開始位置を1～255まで設定し、バーコードの種類も設定することができます。

- Bin Start Position and Symbology

Binバーコードデータで比較する文字列の開始位置を1～255まで設定し、バーコードの種類も設定することができます。

- Comparing Barcode Length

比較する文字数を0～255の数字で入力します。0に設定した場合、バーコード全体を比較します。

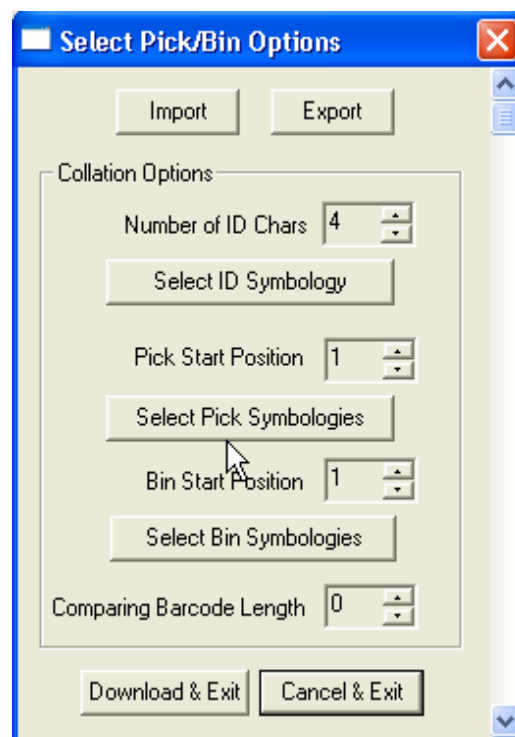


図41. Pick/BINアプリケーションメニュー



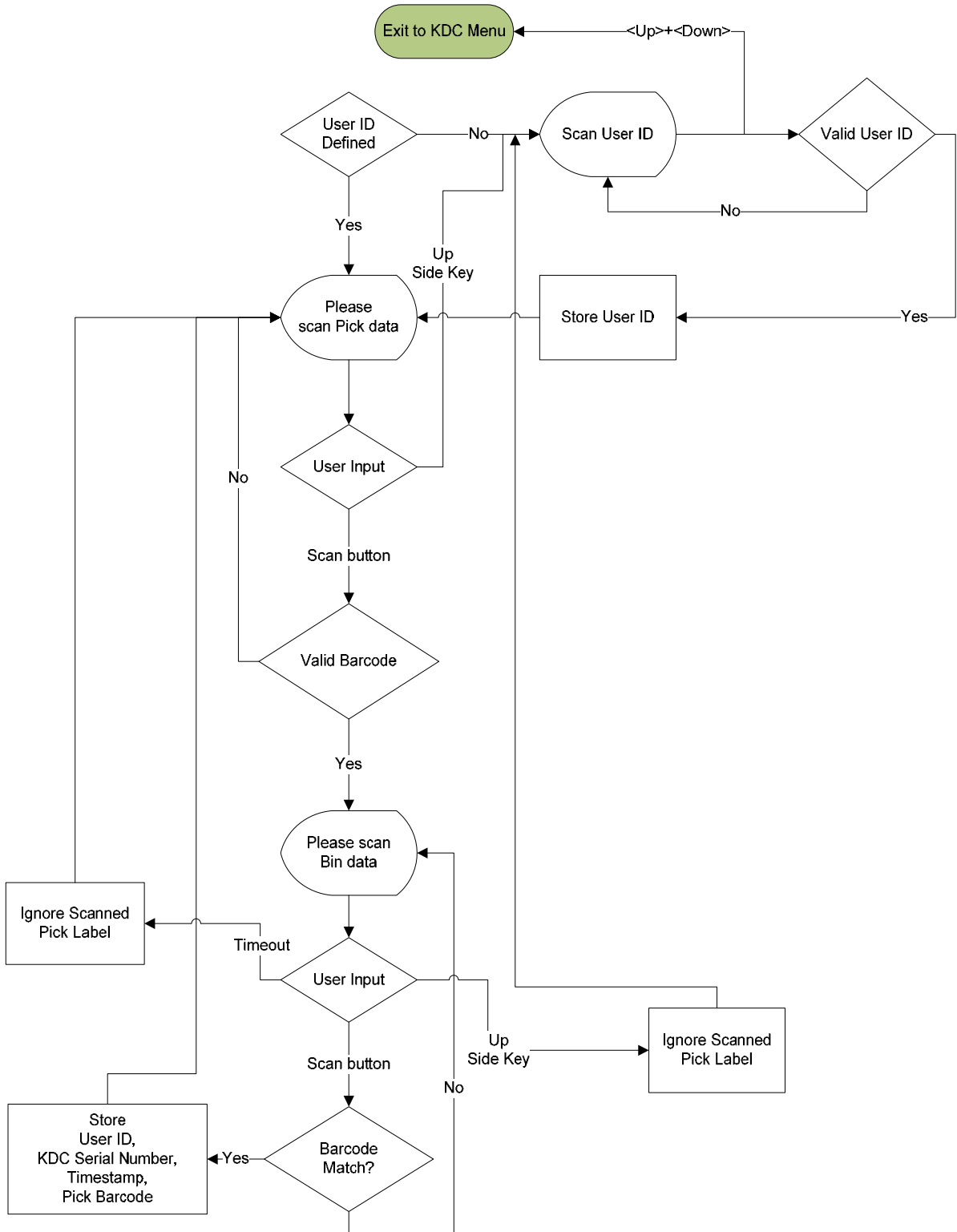


図42. Pick/BIN Application Flow Chart

## DB Lookup Application設定

DB Lookup Applicationはバーコードをスキャンした後でデータを追加するようなアプリケーションで利用するデータベースをダウンロードができます。例えば、バーコードをスキャンした際に、商品説明、価格、在庫数のようなデータをKDCの画面に表示することができます。データベースはMicrosoft Excelで手軽に作られ、商品バーコードをスキャンした場合に商品説明、価格、在庫数などの情報を表示することができます。

### DB Lookupアプリケーションの機能

- データベースの最大数は800個です。
- レコードサイズは最大で128バイトです。
- 最大フィールド数は、バーコードデータを含め4つです。
- 最大フィールドサイズは 39文字です。
- KDC画面にDBフィールド値が表示された後、機器側面の上下ボタンを押して数量を入力することができます。
- Microsoft Excelを使用してデータベースを作成できます。
  1. エクセルファイルは.txtファイルとして保存してください。
  2. レコードはCR/LFで区切ってください。
  3. フィールドはTABで区切ってください。
  4. データベースはCR/LFで終了してください。
  5. データベースの最後の4バイトはCR/LF/CR/LFになります。

### DB Lookupフィールドと設定

- Download DB to KDC - 作成したデータベースをKDCにダウンロードします。
- Starting Quantity -スキャンした各バーコードの基本数量を設定します。基本数量は1~128の値で指定することができます、機器の上下ボタンを使って設定することができます。
- Barcode Field -データベースのバーコードフィールドの位置を1~4の間で設定します。
- Stored Barcode Start Position (保存されたバーコードの開始位置) -スキャンしたバーコードデータと比較するデータベースの開始位置を1~39の間で設定します。
- Scanned Barcode Start Position (スキャンしたバーコードの開始位置) - スキャンしたバーコードデータの開始位置を1~39の間で設定します。
- Comparing Barcode Length (バーコードの長さを比較) - 比較するバーコードデータの長さを0~255の間で設定します。0を設定した場合、バーコードデータ全体を比較します。
- Display on KDC (KDC上の表示) - KDC画面に表示するデータベースフィールドを指定します。KDCは1~3のフィールドを表示することができます。行と同じ値に設定すると1つのフィールドを2または3行で表示します。

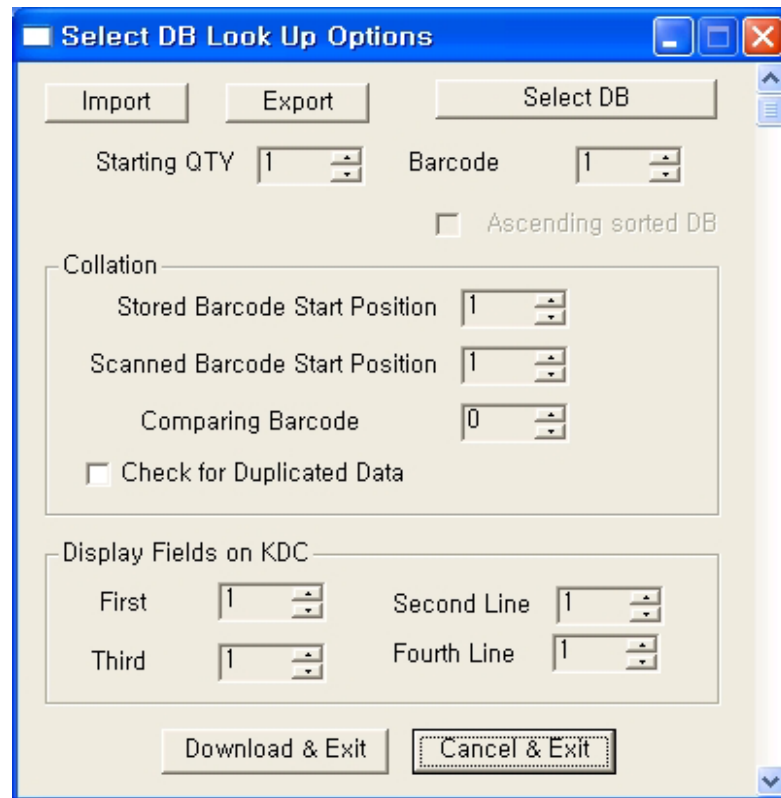


図43. DB Lookupアプリケーションメニュー

## Inventory Application設定

Inventoryアプリケーションは、在庫管理用のアプリケーションプログラムです。在庫と同じバーコードを読むと、在庫数が1つずつ増えます。また在庫のデータベースをKDCにダウンロードすることができます。データベースがある場合、KDCはバーコードをスキャン後に在庫情報を画面に表示します。

### Inventory アプリケーションの機能

- 在庫数は最大で800個です。
- レコードサイズは最大で128バイトです。
- 最大フィールド数は、バーコードデータを含め4つです。
- 最大フィールドサイズは 39文字です。
- バーコードスキャン後、機器側面のUP/DOWNボタンを押すことによって、1～32786までの数を入力することができます。
- 基本数量は1～128です。
- Min/Max. Data Lengthは2～256（KDC100/200/250/350L）、4～256（KDC300/350C）です。
- Barcode Collation Start Positionは1～256です。
- Collation Data Stringの長さは1～30です。
- Collect Partial Data Start Positionは1～256です。
- Collect Partial Data Lengthは1～256です。
- Microsoft Excelを使用して在庫データベースを作成できます。
  - エクセルファイルは.txtファイルとして保存してください。
  - レコードはCR/LFで区切ってください。
  - フィールドはTABで区切ってください。
  - データベースはCR/LFで終了してください。
  - データベースの最後の4バイトはCR/LF/CR/LFになります。

